

# 保健部だより(ヘルスケアマネジメント) 第7号

～コロナ禍における社会の変容と情勢～

## 【はじめに】

コロナ禍において、「命・健康」や「予防・ワクチン等」について、中心的に発信をしてきました。今回は、新聞や報道を中心にコロナ禍の中の情報を提供いたします。コロナ禍は、社会を大きく変えつつあります。その現状と課題を皆さんと考えていきたいと思えます。

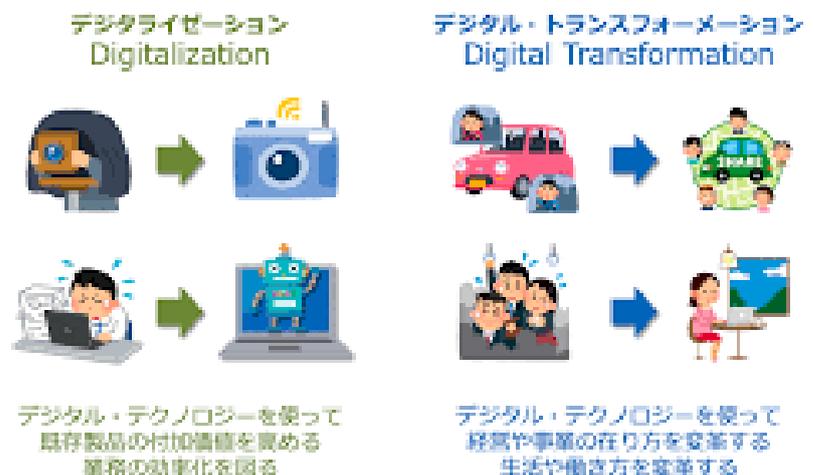
## 【インド成長率、最低水準】

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらないインドで、工場の操業停止や物流寸断が経済に深刻な打撃を与えています。インド政府が8月31日に発表した4～6月期の実質経済成長率は前年同月比23.9%のマイナスと過去最悪です。新規感染者数は1日あたり8万人前後と世界最多で、収束の兆しはみえません。日本は8月(1か月)で、3万人を突破しています。人口が日本の10倍以上のインドでも、この感染者数は多いのではないのでしょうか。

## 【銀行の規制緩和・DX推進】

金融庁が8月31日、2020事務年度の金融行政方針を発表した。新型コロナウイルスの影響で変革を求められる企業の支援に向け、銀行の出資規制を緩和します。金融サービスの進化のためデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進。海外金融ビジネスの誘致策も講じます。「コロナ時代」に対応した柔軟な規制・監督のあり方が問われます。

## デジタルライゼーションとデジタル・トランスフォーメーション



※「デジタルトランスフォーメーション：DX」とは

「デジタルによる変革」を意味し、ITの進化にともなって新たなサービスやビジネスモデルを展開することでコストを削減し、働き方改革や社会そのものの変革につなげる施策を総称したものです。(マーケティングの観点での意味・説明です)

【医療保険・歩数に応じ安く】～ジャストインケース・スマホで計測反映～

歩数に応じて保険料が安くなる保険ができる。保険のスタートアップのジャストインケース（東京・千代田区）はディー・エヌエー（DeNA）と連携し、スマートフォンで計測した毎月の歩数で保険料を最大半額にする医療保険を売り出す。歩数を保険料に毎月反映する保険は初めて。デジタル技術で健康増進を促す保険が広がってきた。

1日の歩数	リスク変化		
	総死亡	心血管疾患による死亡	がん死亡
2000歩	51%↑	51%↑	23%↑
4000歩	参照	参照	参照
6000歩	32%↓	32%↓	18%↓
8000歩	51%↓	51%↓	33%↓
1万歩	60%↓	60%↓	45%↓
1万2000歩	65%↓	65%↓	55%↓
1万4000歩	66%↓	66%↓	63%↓
1万6000歩	66%↓	66%↓	69%↓

DeNAと住友商事の共同出資会社、DeSCヘルスケア（東京・渋谷）が開発した。ビッグデータを匿名化し、歩数や体重と疾病にかかる確率をはじき出してつかう。歩数と体重に応じ必要な保険料を設定し、金融庁の認可を得た。がんなどの入院時に最大で60万円の保険金を支払う。

歩数はスマホのアプリで計測する。体重は毎年健康診断書の提出を求めるほかアプリで毎月入力してもらう。体重の重い人が多く歩くほど保険料の割引幅は大きくなる。最大の割引率は30～34歳の男性で、3割強、70～74歳の男性で52%になる。

割引前の保険料は30～34歳の男性で月額1540円。歩数計アプリの利用者などに契約してもらい3年で10万人の加入を目指す。ジャストインケースは2016年設立。扱い方で保険料が変わるスマホの修理費用保険や、契約者間の保険料で保険金の支払いを「割り勘」する保険を開発してきた。

[日本経済新聞社 2020年9月1日号1・7面から引用]

つまり、アメリカの研究報告では、4000歩以上あるけば、総死亡リスクは減少することになります。コロナウイルス感染症も心配ですが、定期的な運動を行い、疾病リスクを抑えることも大事だと考えています。

（論文は、JAMA誌2020年3月24日/31日号に掲載されています）  
<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO61941050X20C20A7000000/>

文責 県立八代工業高校定時制保健主事 境 健次